

令和3年度 自己評価報告書

学校法人 石井学園
岐阜調理専門学校

1 学校の教育目標

本校は教育基本法及び学校教育法並びに調理師法の規定に基づき、調理師に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付けるとともに、教養の向上と人格の陶冶を図り、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

2 目指す学生の姿と重点的に取り組む事項

目指す学生の姿

- ①気持ちの良い挨拶ができる学生
- ②食の安全・安心のため、衛生観念の高い学生
- ③常に向上心を持ち、調理のスキルアップにどん欲に取り組む学生
- ④遅刻・欠席をせず、意欲的に授業、学校生活に取り組む学生
- ⑤仲間を理解し、協働できる学生

重点的に取り組む事項

(1) 社会人としての基本的な生活習慣の確立

- 「挨拶ファースト」
- 遅刻指導の徹底
- 掃除指導の徹底

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応（生徒の安全と学習権の保証）

- カリキュラム、年間指導計画の柔軟な対応
- 施設設備の対応
- 生徒の健康管理
- 調理実習の在り方
- 職員と職場の健康管理と安全

(3) 資格指導の充実

- 製菓衛生師の合格率アップ
- 全ての検定に全員合格を目指す。

(4) 学生募集

- 体験入学募集にSNSの導入
- 学校ガイダンスの充実
- 高等学校との連携強化（出前授業の充実、生徒・高校教員の体験講座の充実）
- 体験入学の中身の検討と学生・保護者個別相談会の実施

3 評価項目の達成と取組状況

評 価 基 準
適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	自己評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか)	4
・学校における職業教育の特色は明確か。	3
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4

(Avg.3.6)

① 課題等

- 本校理念等の保護者への周知機会を増やしたが、周知の程度は把握しにくい。
- 県内で唯一の調理と製菓を学べる専門学校で、本校に対する業界からの期待は非常に大きい。業界の期待に応えられるよう使命感を持って、学生に力をつけ、業界ニーズに合致した人材の育成を図っていかなければならない。
- 特に、専門店、ホテル、集団給食等によって、勤務体系や仕事内容がかなり異なるため、多様な進路先に対応できるよう、幅広い分野での基礎的な技術の習得が必要である。

② 今後の改善方策

- 本校の理念等の保護者への周知は、この自己評価の開示（HP 掲載）、入学式の後のガイダンスでの説明、本校HPの充実、SNS 等あらゆる場面を駆使して深めてきたが、今後も継続する。
- 学校独自で行っている基礎技術検定について、その基準をさらに明確化し、生徒がどこが良くないのか、どこを直せばよいかが分かるような指導とする。

③ 特記事項

- 基礎検定は、「全調協実技検定」種目の一部変更もあり、改定の検討を始めた。
- 社会の変化の中で、HACCP の重要性がさげばれて久しく、昨年度委員からの指摘もあったところ。教科「食品衛生学」で HACCP を位置付け、DVD を活用しながら知識の習得に努めさせた。現場の実態を学ぶ機会を設定したい。

(2) 学校運営

評 価 項 目	自己評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
・運営方針や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3
・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4
・教育活動等に関する情報公開が適切にされているか。	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3

(Avg.3.6)

① 課題等

○学校運営に関して、常勤の職員は毎週行われる朝職員会でかなり周知、意思統一はできる。一方、非常勤職員との連携はシステム化されているわけではない。出勤の都度、常勤の職員が丁寧に説明し、学校運営について理解をしていただく必要がある。

② 今後の改善方策

○毎週木曜日の朝に職員会を持ち、その週の行事の確認、コロナ対応に加え、各クラスの学生の遅刻・欠席等の動向を担任からの報告により、職員全員で情報共有できた。今後も継続する。

○非常勤講師に対しては学生の動向等をこまめに報告し、連絡・連携を密に図る。

③ 特記事項

○毎週木曜日の放課後は働き方改革の一環としての意味を含め、原則生徒実習を行わないようにしたが、生徒も理解し、むしろ集中して放課後実習ができた。その時間は、コロナ対応を始め、朝会では時間が足らず話し合えないことや行事の詳細について話し合うことができ、効果が上がっている。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4
・教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
・キャリア教育・実践的な職業活動の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工	3

夫・開発などが実施されている。	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価は受け入れているか。	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保をしているか。	3
・関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4

(Avg.3.6)

① 課題等

- 年度当初、授業のシラバスを用いて生徒ガイダンスを行っている。その際、卒業・進級に関する規定も学生に示し、理解させている。ただし生徒の多様化により、全てを理解できる者ばかりではないので、粘り強く行う必要がある。

② 今後の改善方策

- 多様な課題を持っている生徒が多いことに鑑み、その都度、追試や補習の必要性も含めて該当生徒には丁寧に説明・指導していく必要である。
- 追試実施日は生徒の都合に合わせない。追考査と同じように日時・場所を示す。

③ 特記事項

- 学校目標は明確であり、入学生も目的を持っている。教育課程も国家資格取得を踏まえた内容で、生徒の実態を考慮した学校設定科目等も設けている。

(4) 学修成果

評 価 項 目	自己評価
・就職率の向上が図られているか。	3

・資格取得の向上が図られているか。	4
・退学率の低減が図られているか。	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4

(Avg.3.4)

① 課題等

- 本年度求人は昨年度比で92%であり、苦戦を強いられた。体力のある東京をはじめとする大都会からの求人も多く、地元希望の生徒に若干不利であった。
- 就職活動については、かなりこだわりを持つ生徒が増えてきたとともに、相変わらず取り掛かりに遅い生徒がおり、クラスの雰囲気づくりも大切であると考えている。本年度の本校内定率は約85%を下回る状況である。

○令和3年度資格指導結果（合格者数/受験者数） 技術考查は2/28発表

▶ 2年養成科2年

- ・製菓衛生師試験 18/21 昨年度実績：35/36
- ・フードコーディネーター3級試験 21/21 昨年度実績：36/36

▶ 2年養成科2年、1年養成科

- ・食育インストラクター試験 54/54 昨年度実績：58/59
- ・技術考查試験 (54)/54 昨年度実績：54/56
- ・食品技術管理専門士 21/21 昨年度実 36/36人

○退学者は1月末現在6名、いずれも入学後、学校の学習に興味・関心が持てなくなり、退学に至った。(全校生徒の6%)

その際、校長、副校長が担任とともに保護者・本人と面談をし、今後の進路を必ず確認してから手続きすることとした。

② 今後の改善方策

- 本校の資格指導に対する指導方針は、受験資格のある生徒に対しては、卒業後の進路に関係なく、全員の生徒に取得を目指させており、「目標に向かって努力する姿勢」の獲得には大いなる寄与をしている。今後も継続したい。併せて、資格の持つ意義の周知や授業での指導方法を更に工夫改善をしたい。
- 就職活動への早めの取り組みを促すために、企業の人事担当者の講義等をさらに増やしながら、自分の夢を語らせ、自分事として主体的な活動をするよう指導したい。

③ 特記事項

- 2年ぶりに開催された「グルメピック全国大会」出場者がかなり絞られる中で(和・洋・中それぞれ全国で17名)本校から地区予選を勝ち抜き2名が参加。快挙。

○本校ではホームルーム担任制を取っており、朝のホームルームで遅刻・欠席をした生徒に対しては全て個別に担任から電話確認をしている。

○ただし、事前に自ら連絡をいれない生徒が散見され、粘り強くマナーとして指導し続け、年度末には概ね連絡するようになってきた。

(5) 学生支援

評 価 項 目	
・就職に関する支援体制は整備されているか。	4
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	4
・学生の生活環境への支援は行われているか。	3
・保護者と適切に連携しているか。	4
・卒業生への支援体制はあるか。	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4

(Avg.3.8)

① 課題等

- さらに多くの機会を通して進路ガイダンスや個別相談をこまめに行う必要がある。
- また、経済的に苦しく、奨学金やアルバイトに頼る生徒も多くいる。

② 今後の改善方策

- 本年度は各企業が行う対面式ガイダンスが少なく、オンラインでの開催が多かった。
オンラインガイダンスは SNS からの発信が多く、常に高いアンテナを持たせる指導も必要となってくる。
- 最近では求人票を閲覧しない生徒もあり、SNS で探す傾向がある。学生と企業間だけで話が進むこともあるので、進路相談体制を密にする必要がある。
- 入学希望者の学費負担が少しでも軽減されるように、下記の制度を導入している。
 - ア) 推薦入学合格者特典 (2年養成科希望の高校新卒者)
 - ・指定校推薦合格：入学金半額免除
 - ・学校推薦合格者：入学金一部免除
 - ・自己推薦合格者：入学金一部免除
 - イ) 特別入学サポート制度 (1年養成、2年養成科希望の高校新卒者)
 - 高校生活の充実と4月からのスムーズな学校生活を送るための「特待生制度」
 - ・入学金の一部免除

- ・高校在学中に、一般の体験入学より高度な体験入学を3回無料で受講。
- ウ) 精・皆勤奨学金 (本校独自 2年養成科希望の高卒新卒者)
高校3年間で皆勤または精勤の生徒は、入学金一部免除。
- エ) 「一人暮らし」奨学金制度 (1年養成、2年養成科希望の高校新卒者)
県内在住の生徒で、遠隔地のため一人暮らしを始める学生に対して、年額10万円を補助(返還不要)する制度。
対象地：飛騨市、高山市、下呂市、郡上市、中津川市、恵那市、
大野郡、加茂郡の一部
- オ) 在学中特待制度 (本校独自 1年養成科、2年養成科在学中)
 - ・1年養成科 1年間皆勤・精勤(欠席1日)：卒業時に2万円の奨学金
 - ・2年養成科 2年間皆勤・精勤(欠席1日)：卒業時に5万円の奨学金

③ 特記事項

- 昨年度から、カウンセラー(診療心理士)に相談できる機会が確立された。悩みを持つ生徒にとって大変有意義なものと考えている。(グループ校の啓晴高校に依頼。)
- 進路指導については、企業の採用担当者等外部講師を招聘した進路講話、校内ガイダンスの実施を多く設定(13社23件)した。生徒にとって大変有効で、今後も継続したいが、企業との調整、授業変更等の一層の工夫が求められる。
 - ・グルメキャリアと連携した招聘企業は以下のとおり
シダックス、トーカイフーズ、コムライン、SORAグループ、リゾートトラスト
- 国の新しい修学支援金制度が開設され、本校は国から認定された確認校である。
これにより、一定の条件により、給付型の奨学金を得ることが可能になった。
この制度は高校生も対象であり、経済的な理由で本校入学を断念せざるを得ない生徒にとっては有効な制度である。令和3年度 1年生6人、2年生4人
- 「一人暮らし」奨学金制度該当者は3年度入学生から年間6万円から10万円にあげたところだが、3年度入学生該当者は5名であり、昨年度入学生は2名であったことを考えると年間10万円が大きな支援になっていると考えられる。
「特別入学サポート制度」を利用して入学する生徒は、4年度入学生で85%と、高い値で安定している。
今後も、体験入学、ガイダンス、高校訪問を通して支援制度を周知していきたい。

(6) 教育環境

評価項目	自己評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4
・学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備がなされているか。	3

・実習室の衛生管理はしっかり行われているか。	4
・実習室、普通教育、自習室等施設内の空調設備は十分か。	4
・防災に対する体制は整備されているか。	4

(Avg.3.8)

① 課題等

○海外研修は本年度当初から困難との見方をしていたが、日程だけは確保した。結果的に実施できず。国内研修も視野に入れ計画し始めたが、感染症対策、授業確保の面から本年度は計画、実施できなかった。

② 今後の改善方策

○パンデミックの中、海外研修の在り方の検討

調理専門学校なので、研修の柱の一つとして、調理実習の体験を位置付けたい。

今後は国内研修も視野に入れたい。ここで HACCP の実践研修も位置付けられる。

○これまでの海外研修実施状況

R3：実施できず R2：実施できず R1：14人 H30：10人 H29：実施せず

H28：実施せず

③ 特記事項

○今年度は実習中の火災や事故は一件も発生しなかった。

○火災発生時の自主防災や避難経路の教室内掲示をするなど、再確認を徹底的に行い今後も継続する。

○コロナ感染症対策において、本校はもともと衛生管理（食中毒対応 ノロウイルス）を徹底しており、手指消毒等スムーズにできた。デルタ株、オミクロン株等により、全国の大学等で多くの感染者が出る中、本校では陽性者は一人で、休校も一日で済んでいる。結果的に学習時間がきちんと確保された要因の一つとして、生徒たちの自身の命は自分で守るという自主性、主体性が育っていると考えられる。

（７）学生の受け入れ募集

評 価 項 目	自己評価
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3
・学納金は妥当なものとなっているか。	4

(Avg.3.7)

① 課題等

年度ごとの入学生一覧

	H29	H30	H31	R2	R3	R4
1 年養成科	29	32	28	24	36	33
2 年養成科	25	24	40	23	40	29
合 計	54	56	68	47	76	62

○2 年養成科の入学生は隔年で高低の傾向が見える。令和 2 年度から授業料アップしたことや県内高校生の生徒数の減少等があるが、入学生の確保に益々努めなければならない。(R4 年度は 1 月末現在)

② 今後の改善方策

- 高校生の使用頻度の高いツールとして LINE があげられ、本校も高校生個人にダイレクトで双方向の連絡ができる「LINE 公式アカウント」を設定した。
- 本校は県内唯一の調理製菓の専門学校であるため、県内の高校との繋がりを更に強化し、本校の持つ使命を高校にも理解してもらう必要がある。具体的な方策として、体験入学のメニューやその時期を更に検討する。
- アフターコロナをにらみ、高校への出前授業の強化や本校施設を利用した高校の調理講習会等を計画し、本校への理解を深めていただく。
- 社会人を対象とした体験入学や説明会をニーズに合わせた時期に開催する。

③ 特記事項

○本年度の体験入学の状況 【 】内は昨年度

第 1 回 (5/8) : 中止 【(5/9) : 中止】 第 2 回 (5/22) : 中止 【(5/23) : 中止】
 第 3 回 (6/5) : 24 人 【(6/6) : 8 人】 第 4 回 (6/19) : 15 人 【(6/20) : 10 人】
 第 5 回 (7/3) : 14 人 【(7/4) : 17 人】 第 6 回 (7/17) : 15 人 【(7/18) : 32 人】
 第 7 回 (8/3) : 40 人 【(8/3) : 19 人】 第 8 回 (8/18) : 中止 【(8/19) : 18 人】
 第 9 回 (9/4) : 33 人 【(9/5) : 39 人】 第 10 回 (9/11) : 18 人 【(9/12) : 38】
 延べ人数 : 159 人 【181 人】

○高校生対象ガイダンスへの参加回数

◇ 73 回 (体験型ガイダンス 2 回、面接型ガイダンス 64 回、 講義型 7 回)

・昨年度 54 回 (体験型ガイダンス 4 回、面接型ガイダンス 42 回、 講義型 8 回)

・一昨年度 116 回 (体験型ガイダンス 13 回、面接型ガイダンス 96 回 講義型 7)

◇ コロナ感染拡大のため、昨年度に引き続き、延期もしくは中止となった。特に体験型ガイダンスの減少は顕著であった。

(8) 財務

評 価 項 目	自己評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
・財政について会計監査が適正に行われているか。	4
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4

(Avg.4.0)

① 課題等

○年度による学生数の増減により、本校のみの財政面も若干増減するが、学園全体としては、安定しているといえる。

② 今後の改善方策

○岐阜調理専門学校単独で財政的に課題がないように、今後も学生募集に努める。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己評価
・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
・自己評価結果を公開しているか。	4

(Avg.4.0)

① 課題等

○専門学校としての使命を持って適切な法令の遵守を行っている。特に問題なし。

② 今後の改善方策

○個人情報の管理については機会を通して職員に周知徹底していく。

③ 特記事項

○自己評価は公開済み。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	自己評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。	3
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	3

(Avg.2.7)

① 課題等

○本校は岐阜駅構内に学校があり、必要最低限の施設設備で授業を展開しているので、

交通安全等における社会貢献は行いにくい状況。

一方、本校では大半の生徒がアルバイトをしているが、アルバイトをサービス系ではなく、飲食業界の厨房でのアルバイトを勧めており、これを通してマナー、社会性獲得の機会としたい。

調理師免許取得のための必要時間数を確実に確保するため、カリキュラムが組まれており、現場実習やインターンシップを導入することは困難である。

② 特記事項 ○特になし。

4 総合的な自己評価結果

評 価 基 準		
適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1		
評価項目	評価となる観点	評価値
0 本年度定めた重点的に取り組む事項について	・社会人としての基本的な生活習慣の確立 ・新型コロナウイルス感染症への対応 ・資格取得の充実 ・学生募集	4
1 教育理念・目標に関して	・学校の理念・目的・育成人材像が明確で、社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想が抱かれているか。また、そのことが学生・保護者等に周知されているか。 ・学校の教育目標、育成人材像等が業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4
2 学校運営に関して	・運営方針が策定され、それに沿った事業計画がなされているか。 ・人事、給与規定が整備され、業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 ・教育活動に関する情報公開が適切にされており、情報化による業務の効率化が図られているか。	4
3 教育活動に関して	・教育理念に沿った、教育課程の編成がなされ、xz業界のニーズを踏まえた教育レベルや学習時間の確保はされているか。 ・実践的な職業活動の視点に立った教育方法の工夫や、業界の関係団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直しがされているか。	4

	・教育目標を達成するための教員確保がなされ、能力開発のための研修等が行われているか。	
4 学修成果に関して	・就職率の向上、資格取得の向上、退学率の低減が図られているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価をしているか。	3
5 学生支援に関して	・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制、学生の経済的な支援体制等が配慮されているか。 ・学生の生活環境への支援が行われ、保護者との連携は適切に行われているか。 ・社会のニーズを踏まえた教育環境の整備がされているか。 ・高校・専修学校との連携によるキャリア教育の取組が行われているか。	4
6 教育環境に関して	・教育活動に関する施設・設備が十分であり、海外研修等についても十分な教育体制がなされているか。 ・防災や衛生管理に対する体制や整備がなされているか。	4
7 学生の受け入れ募集に関して	・学生募集活動は適正に行われ、学納金は妥当なものか。	4
8 財務に関して	・学校の財政基盤が安定しており、予算・収支計画は妥当であるか。 ・会計監査が適切になされ、財務情報公開の体制整備はできているか。	4
9 法令等の遵守に関して	・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に適正に保護されているか。 ・自己評価を実施し問題の解決をするとともに、自己評価結果を公開しているか。	4
10 社会貢献・地域貢献に関して	・学校の教育資源や施設を活用して社会貢献や地域貢献を行っているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援し、地域に関する公開講座等を積極的に実施しているか。	3

